

2003 年度末役員会報告

【期間】 2004 年 3 月 2 日（メール発信日）～3 月 24 日（昨日）

【方法】 2003 年度役員と各事業担当に電子メールで代表者から問題提起。ML で意見交換しながら代表者が集約した。

【参加者】

代表：中塚義実、幹事：内田正人・宇都宮徹壺・笹原勉・長岡茂・本多克己、
監査役：仲澤眞（以上が役員）、会計・名簿担当：川井寿裕、2003 公開シンポジウム担当：上間匠、
活性化プロジェクト：安藤裕一・内藤隆（活性化プロジェクトはこの他役員も含まれる）

<目次>

< I > 役員会と総会の位置づけ

< II > 2003 年度事業報告及び決算

1. 事業報告
2. 決算報告

< III > 2004 年度（以降）について

1. 2004 年度会員募集
2. 規約の改正
3. 2004 年度の役員構成

I. 役員会と総会の位置づけ

2003 年度末の総会は、例年どおり「ホームページ上の総会」として「役員会報告メール」（本メール）をもって開催とし、何かあった場合はメール受信後 1 週間以内に代表者まで連絡する。

II. 2003 年度事業報告及び決算

1. 事業報告

0) 名簿製作

2003 年 5 月 16 日付で発行、会員に送付された（「会員」とは、名簿原稿を提出し、かつ会費を払った方を指す）

1) 月例会

毎月月例会を行った。発表者謝金がかからない会（参加者による討論会形式）が数回あったので、月例会としては11,000円の黒字。全体会計に組み入れる）

2) プロジェクト

(1) サロン 2002 活性化プロジェクト … 昨年5月の総会時に提案されたプロジェクト。会員対象にアンケートを実施して6月例会で問題提起したが、年末に提言を行うという当初の目標は達成されぬまま活動休止状態に。しかし、「月例会の出席者をあらかじめ確認する」ことが試行されたのはプロジェクトの成果の一つと言える。

(2) 公開シンポジウム 2003 … 8月2日に東京体育館で開催された。テーマは「地域で育てるこれからのスポーツ環境」。告知が行き届かず、参加者が少なかったのが残念だったが、参加者はいずれも満足の様子。報告書の作成が遅れたが2月中には完成し、関係各所に送付した。報告書には、シンポジウムの内容だけでなく、刈谷市サッカー連盟、清水サッカー協会、神戸FC、成岩スポーツクラブ、及び大分県の現状と課題を、各地の中核として活躍されているサロン会員が「特別寄稿」として執筆した。頒価500円にて頒布中。シンポジウムと報告書をあわせて、現時点で118,992円の赤字（報告書の売り上げによって赤字分は減ずる）。全体会計から補填する。

3) 出張・合宿・お出かけサロン

9月例会を、「出張サロン in 大分」として、大分県サッカー協会にて行った。

4) 情報発信

毎月送信される「サロン 2002 通信」と、全会員が加入している「公式メーリングリスト」が会員の情報交換の場。メーリングリストでは貴重な情報が交換された一方で、「サロンのMLにあう話題を提供しにくい」「BBSがあれば」との意見があった（2月例会報告参照）。

外部への情報発信として「サロン 2002 オフィシャルサイト」があり、月例会報告が毎回掲載されている。詳細については新年度総会にて報告予定。

5) その他

サロンの公式プロジェクトではないが、JFAとJリーグの今後の連携を探るためのミーティングが、6～10月にかけて数名のサロン会員で開かれ、プレゼン用資料にまとまった。

2. 決算報告

2003年度会員として入会申請された102名の中で会費未納者12名に対し、3月14日付で督促状を電子メールで出した。現時点で4名が未納。

逆に、入会申請していないのに入金された方が4名いる。

2003年度の各事業が終了したので、3月末日時点で入金分を確認し、改めて報告したい。

Ⅲ. 2004年度（以降）について

1. 2004年度会員募集

1) 会員とは

「サッカー・スポーツを通して21世紀の"ゆたかなくらしづくり"を目指すという"志"に賛同した個人であれば誰でも、一定の手続きを経て"会員"となることができます。但し、会員は"Take"を求めるだけでなく、社会に対して、またサロン2002に対して何が"Give"できるかを常に考え、"Give and Take"の姿勢で入会してください。短期的な成果は求めません。長い目で見た"Give and Take"の関係が成り立っていればよいのです。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で"Give"を考えている方（学生含む）なら"会員"となることができます」（サロン2002HPより）。

設立当初からの上記の考えは不変であるが、2004年度からは「退会の意思表示をしない限り、会員である（名簿に掲載される）」という考えに立ちたい（2月例会報告参照）。それぞれの活動が"ゆたかなくらしづくり"を目指しているのであればOKだし、長い目で見て"Give and Take"の関係が成り立っていればよい。サロンとその仲間を「応援したい」人も、引き続き会員として受け入れたい。

サロンの柱は「同志のネットワーク」である。サロンの"志"に賛同する人にはどんどんこのネットワークに入ってもらいたい。

2) 会員手続

例年通り、「名簿へ掲載する自己紹介文」と「会費納入」による

3) 自己紹介文

ほぼ例年通り。一部、検索用の項目を入れた

4) 会費

例年通り、一口2000円（何口でも可）を指定の口座に振り込む。ただし、2005年度からは年会費の自動引き落としができるよう、2004年度中に準備を進める（日本フットボール学会と同じ方法を探る）

5) 募集期間

2003年度は3月10日～4月10日を会員手続期間（この期間内だと名簿に掲載される。入会そのものはいつでも可）とした。2004年度は、多少遅れ気味だが、3月25日～4月20日を会員手続期間とする。2003年度会員は必ずこの期間内に手続きを完了していただきたい。

2. 規約の改正

全く手がつけられていない。手が回らなかったこともあるが、必要に迫られなかったというのものもある。役員会やMLでの議論も深まらなかった。よって、年度の書き換え以外は現行通り。

3. 2004年度の役員構成

役員は2000～2001、2002～2003と、いずれも2年連続でやっていただいた。2004年度は役員交代の時期となるので何名かの入替えを行う。

と同時に、「次世代の活動家の育成」と「サロンの活性化」のために、若手の「執行役員」を若干名置き、2004年度は「役員（代表1名、幹事5名、監査役1名）」とともにすべての業務を分担して、責任を持って行うものとする。

「役員」（ご意見番）及び「執行役員」（若手活動家）について、立候補や推薦があれば中塚義実までご連絡ください。

なお、「執行役員」導入の背景には以下のような議論があったことを付け加えます。

※（前略）役員交代と一緒に、会員の中で「あの人」というイメージが湧かないのが、現在のサロンの問題点ではないかと思えます。どうも2002年のワールドカップ以降、会員のモチベーションが強く感じられないのです。これでは、「スタジアムの後利用」と同じ状況ではないかと思えます。ワールドカップ開催間際などは、一番会員の盛り上がりを感じられたのに、我々が世間に対して危惧していた「バーンアウト」が、実は我々に起こっている感じがします。次なる目標をきっちりと掲げることが、大切な気がします。そして、次の世代の活動家を育てていくことも、我々のミッションではないでしょうか？

※ サロンとしては2003年以降を最初から見ているはずですが。一部の会員にとっては、日本でのワールドカップ開催が自身の活動として大きな目玉となったことは事実でしょうが、そのことが、サロンが2002年を目指していたというのとは異なると思えます。とはいえ2003年はちょっと休憩の年だったのかもしれない。みなさんがそれぞれ熱い思いを持っていることはわかっているので、今年はその思いを、サロンにも持ち込んで欲しいと思えます。（たとえ月例会に参加できなくても、メーリングリストなどで発信して欲しいですね）。次世代の活動家、育てたいですね。それには今を活性化させることが大切かもしれません。

※ 「次世代」というのは、70年代以降に生まれた人たちのことを指すのでしょうか？（中略）ここ数年、こうした若い世代の参加者が、いわゆるスポーツを専攻されている学生さん以外は減少傾向にあるように思えます。その理由は、やはりインターネットの普及と無関係ではないでしょう。すでにご存じの方も多いと思いますが、若い世代のサッカーファンは、やはりネットによる（文字通り）ネットワークに依存する傾向が強いように思えます。ここ最近、個人でネットを運営して、それなりに知名度のある（ただしハンドルネーム）方と何人かにお会いする機会がありましたが、われわれ旧世代のように月に一度、面と向かって会うという習慣はないようです。例のジーコ解任デモも、まさにそうしたバーチャルなネットワークから生まれたムーブメントでした。いい、悪いの問題ではなく、人的ネットワークが互いの顔

を晒さずに済んでしまう現状にあって、それでも特定された時間と場所を共有できるサロンの意義を今一度、確認する必要があるかも知れません。個人的には、今の20代のサッカーファンと出会う機会を、サロンでもっと増やしたいと考えています。組織を活性化させるには、やはり若い血が不可欠ですから。

※このところビジネス業界では執行役員というのが流行しています。元々アメリカにあった制度ですが、本来の役員が会社の業務そのものには関わらず、お目付け役として社長や会長による経営そのものを監視していくのに対し、執行役員は通常は社内のある部門のトップを兼ねていて、実際の業務を行いながら会社全体の経営にも参画する、というものです。さて、我がサロンの運営を見ると、すべてのことを中塚代表が取り仕切り、役員は、私などその際たるものですが、実際の運営は行わず時々意見を言うだけにとどまっています。私や他の多くの会員も何かしなければいけないとは理解しつつ、「他の人がやればいいや」症候群に陥っており、「では誰が何をどうするの？」になると行き詰ま"ることになってしまいます。そこで以下を提案します：

1. 現在の役員はお目付け役、ご意見番としてあと2年間継続する。
2. 一方、執行役員のような役員を新たに5名ほど選考する。
3. 基本的にサロンが行っているすべての業務を各新役員に振り分け、担当分野についてはその人が責任を持って行うことにする。例えばある人は規約の改正を担当する、ある人は名簿の発行と新規参加者の情報整理を行う、ある人はシンポジウムを企画・開催するなど。自動引き落としも誰かの担当とする。会計の川井さんの位置付けもこの新役員と同列になると思います。また、月例会は企画、開催、連絡、報告までを新規役員が持ち回りで担当することも面白いのでは。
4. 新役員は、大学生等比較的時間が使える人や、若手でスポーツ関係の職業についている人、中塚さんの教え子などの中から一本釣りを選び出し、就任を頼み込む(命令する?)。若い人が望ましい。新役員に次世代の活動家となることを期待しているのは言うまでもない。如何でしょうか?新役員の選任と就任依頼はぜひとも中塚さんに行ってほしいのですが(実に「他の人がやればいいや」症候群的ですみません)、現役員でこれといった人が思いつく方は、代表宛てに別途メールを送ってもらえればよいと思います。

※ 「執行役員」案については、サロンの現状を打破するひとつの手だと思います。現状の役員はやはり日常的な仕事に追われて、動くに動けないというのも確かかと思うので、実働部隊ですね。「業務を各新役員に振り分け」については、現役員も担当を持つというのはどうでしょう。業務を現役員(大人)/新役員(若者)のセットで推進していくというイメージです。